

2025年度 第3回 学校運営協議会

1 日時 2026年（令和8年）2月13日（金） 14:00～15:50

2 場所 図書室

3 参加者

上野 リサ （オンライン）	地域学校協働活動推進員・デザイナー
古山 貴規	経済産業省
羽田 知世	さくらホーム
細田 暁 （オンライン）	横浜国立大学教授
江竜 陽子	TAU GRAPHIC アートディレクター
和田 聖子	PTA 会長
友瀧佳司之	福山市立鞆の浦学園 校長

4 内容

（1）授業参観

（2）学校の取組説明

- ・県の指定を受け、今年度、県教育委員会の指導を受けて授業づくりに力を入れている。徐々に先生たちの授業の考え方が変わってきた。
- ・今後も児童生徒一人一人の実態把握を丁寧に行い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善に取り組む。
- ・自分たちで企画・運営した運動会や自己探究した「鞆学」を通して、こどもたち自身がコミュニケーション能力や郷土愛が育まれたことを実感している。力を貸してくださる地域の方、保護者の方の存在がありがたい。
- ・先生達の健康が第一である。笑顔で授業を行えるように、ワークライフバランスを作っていきたい。複数の学年の教材研究等、業務量が多いが、今年度教職員のやりがいは100%である。

（3）新学園会との交流

- ・新学園会スローガンについて
- ・幸せの道について
- ・学園会としての意気込み

- ・新学園会メンバーへのアドバイス

スローガンに込められた全員の思いを改めてすり合わせ、再認識してはどうか。みんなで考えたスローガンを大切にしながら、新しいことに積極的にチャレンジしていくことが大切である。失敗を恐れず、多くの経験を積むことが成長につながる。思い通りにいかないことも含め、すべてを経験として糧にしながら育っていくことを期待する。

(4) 質疑・応答, 意見交換

- ・ 鞆の浦学園は1学年1クラスだからこそ、単独で動きやすい。先生にも、やりたいことに積極的に挑戦していくことを願う。
- ・ 1学年1クラス体制に伴う子どもたちのコミュニケーション力育成は不安。高校進学時における他校生徒との人間関係への懸念。一方、他学年との合同サッカー授業における活発な様子を見て一定の安心感もある。
- ・ コミュニティスクールの活用方法の再確認。他校の事例を挙げられて、来年度、市内一斉にCSが開始されることによる懸念点の整理。ボランティア活動の延長線としての扱い、または軽視される可能性への留意。学校側およびCSメンバー双方による制度の意義や目的の十分な理解が必要である。

(5) 事務連絡

- ・ 来年度の連絡

第1回学校運営協議会 5月29日(金) 14:00~15:50